

# 学生ボランティアを 求む!

旭町学術資料展示館長  
橋本博文

本学旭町学術資料展示館(通称:あさひまち展示館)は2001年に開館後、大学所蔵の貴重学術資料の一般への公開と学内の教育活動などに活用されてきた。それを支えるのは、非常勤事務員1名と事務担当部局の学術情報部資料公開関係の関係職員、そして展示館運営委員会委員を務める各部局代表の教員や関係教員、さらには外部の理解者であるボランティア組織「友の会」の市民である。それに加えて、退職教員の一部の方々にも「にいがた街なか化石探検」などでお世話になっている。当館の活動が今日まで順調に続いてきたのも、ひとえにこれら関係者の献身的な努力に負うものと、この場をお借りして感謝したい。

ところで、その他ことあるごとに教育の一環ということで教員の側から学生に展示の飾り付け、ギャラリー・トークなどを課して博物館活動を実施してきた。しかし、それは残念ながら学生側か

らの自発的な行為ではなかった。他方で、学生の中には市の歴史博物館でボランティアをしている者もいるようである。北大などでは大学博物館に院生を中心として学生ボランティアが組織され、標本整理などに当たっている。

一方、一般ボランティアの方々も、各人のできる範囲のことで、玄関前の清掃や展示の補助、監視、解説、講演会のテープ起こし、ニュースレターの編集、体験学習のお手伝いなどに積極的に取り組んでいる。

昨年視察してきた海外、ヨーロッパではイギリスのケンブリッジ大学附属セジウィック地質博物館やオックスフォード大学自然史博物館などで、ファミリー・ファン・デーやサイエンス・フェスティバルの学生ボランティアによる各種催しの補助が行われていた。また、授業の利用としては、イギリスのニューキャッスル大学附属古代博物館やドイツのハイデルベルク大学附属動物学博物館などにおいて授業で課せられたレポートのための熱心な見学の光景が見られた。特に、後者では閉館時間を過ぎ消灯された後も薄暗い室内でメモをとる学生の真剣な眼差しが印象的であった。さらにフランスのポルドー自然史博物館においてポルドー第二大学学生の学習成果を展示で発表する試みがなされていた。学芸員としての就職の際、実務経験がヨーロッパでは評価される。日本でも同様な状況が生まれつつある。

当館でも、大学院教育学研究科の芸術系専攻生の作品展示に活用されたり、人文学部考古学専攻生のゼミ発表の場などにも利用されたりしているが、多くの学生がこの展示館の存在すら知らない現状ではなからうか。先ずは、是非一度足を運んで欲しいものである。そして、学生ボランティアとして活躍することを期待している。



Oxford

イギリス オックスフォード大学附属自然史博物館サイエンス・フェスティバルでの学生ボランティアによるドライアイスを使用しての科学実験の様子

Cambridge

イギリス ケンブリッジ大学附属セジウィック地質博物館ファミリー・ファン・デーでの学生ボランティアの活躍の様子



Let's ♥ Volunteer!

## 健康 コラム

# 過敏性腸症候群について

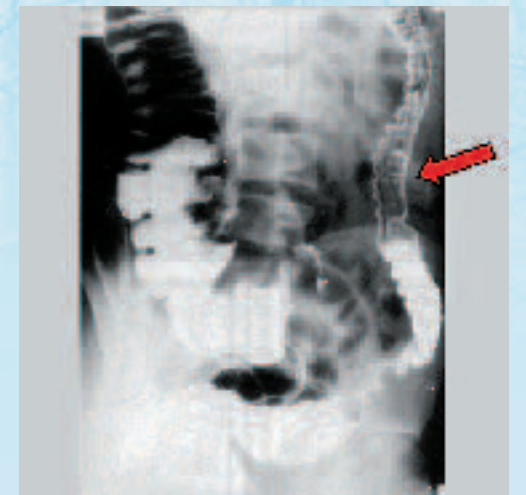
保健管理センター講師 真島 一郎

過敏性腸症候群(IBS)は日常的にみる病気で、インターネット検索でも30万件以上がヒットします。しかし、症状があるのにIBSであることに気がつかない人、周囲から「命にかかわる病気ではないからたいしたことない。」と言われる患者さんも多くいるのが現状です。先日、IBSの治療を受けている学生さんが「冬は特に腹痛、下痢がひどくなるが友達にはつらさをわかってもらえない…」と言っていました。

IBSは明らかな器質的異常がないにもかかわらず、下痢、便秘、腹痛、腹満感などの症状を繰り返す病気です。原因は大腸・小腸の過剰運動や過剰分泌であり、大部分はストレスが関係しています。日本人の有病率は15~20%前後ですが、最近増加傾向であり医療費に及ぼす悪影響が甚大になってきています。また、IBSにより学業、仕事、旅行、食事などに制約が生じ、社会生活の質がおおきく低下することで経済的損失も無視できない状況です。

専門的なことですが、脳と腸の機能的関連を脳腸相関と呼んでおり、IBSは脳腸相関が病態の本質である機能的消化管障害の典型例です。新しい知見では、急性腸炎にかかった後にIBSが発症することがあること、急性腸炎後にIBSを発症した人は不安・抑うつなどの心理的因子が強かったことが報告されています。また、これらの心理的因子はストレスに対する抵抗力を低下させ、急性腸炎後のIBS発症の危険因子である可能性も言われています。

診断基準は、「腹痛あるいは腹部不快感が12ヶ月の中の連続とは限らない12週間以上を占め、その腹痛あるいは腹部不快感が、①排便によって軽快する、②排便回数の変化で始まる、③便の形・硬さの変化で始まる、の3つの便通異常のうち2つ以上の症状を伴うもの」となっています。IBSが疑われる方は、是非専門医(胃腸科・消化器内科、心療内科)の受診をおすすめします。



IBSのレントゲン写真  
大腸が痙攣して細くなっている(矢印)